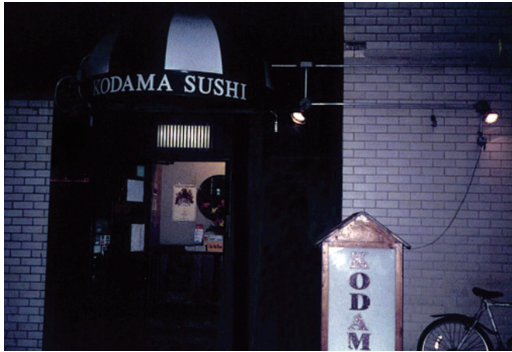


Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



KODAMA in 1997

《 R.I.P. my friend & brother 》

今回は悲報になってしまいますが、どうしても書き留めておきたいことがあります。2月初旬に20代の頃に一緒にニューヨークで過ごした友人であり、弟のような存在だった仲間が天国に旅立ちました。

彼は自分より3歳位年下で、ニューヨークのレストランでは自分はウェイター、彼はキッチンで働いていました。自分が25-26歳の頃に彼は22-23歳で鹿児島からやって来ました。小さなカバンに下着とお気に入りのCD10枚程度だけで持参して、ニューヨークに渡って来たかなり変わった若者でした。

英語は全く話せず、同じレストランでマネージャーをしていた鹿児島出身の先輩を頼ってニューヨークに渡って来ました。英語の面ではエピソードがあり、イースト・ヴィレッジでアジ

ア系の犯罪者の捜査をしていたらしい警官に呼び止められた際、ビックリして逃げたため、犯人と思ったその警官に追い掛けられタックルされ、一晩ニューヨークの刑務所に収監されたり、ひよんなことから韓国人の女の子と付き合うことになったものの、英語が話せないため、自分が通訳を兼ねて彼とそのデートに同行したり、彼のディナーの仕事が終わるまで、その子と彼のマンションで話し相手をさせられたりもしました。

その他、彼とは休みの日に遊んだり、レストランの仕事が終わった後にレストランの仲間たちと朝方まで飲んだり、レストランでも仕事中に世間話をしたり、ふざけたりすることも日常でした。レストランではスタッフにも常連さんにも「マサ」と呼ばれていましたが、彼にはいつも「マーさん」と呼ばれ、自分に懐いてくれ、時にはイジって来たたりして、本当に弟のような可愛い存在でした。

彼は自分の帰国より前に故郷の鹿児島に帰り、その後地元の居酒屋やレストランで働き、30代で自分のお店を開店して、コロナ前までとても繁盛して頑張っていました。子供はいませんが、地元の人と結婚して半年に一度位のペースで「マーさん、元気ですか?！」と電話をくれて、上京した際には新橋で飲んだりもしました。

自分にとっては、最初の職場・就職がマンハッタンのレストランで、当時は景気も良くなく、みな裕福ではありませんでしたが、あの時ほど純粋な気持ちで仲間と遊んだり飲んだことはありませんでした。プライベートでは、ニューヨークで出会った奥さんと結婚できたのも彼のお陰でした。

最後は何もしてあげられなく、恩返しもできませんでしたが、彼と過ごしたニューヨークでの思い出は一生忘れることはありません。自分にとって、彼を含めて当時のニューヨークの仲間との思い出は、大好きな映画「フランス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」の世界のようでもあり、あのエンニオ・モリコーネの音楽を聴くと今でも胸が熱くなります。

人懐っこくて、優しく、楽しい仲間でした。早過ぎたけど、天国でゆっくり休んで下さい。いろいろ本当にありがとう。また会おうな。

Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Kona Brewery Company

コナ・ブリューイング・カンパニー

今回はハワイ島のカイルア・コナに醸造所がある地ビール「コナ・ブリューイング・カンパニー」。日本でも「ロングボードラガー」「ビッグウェーブゴールデンエール」等は、リカーシップで手に入るハワイで1番有名な地ビール。醸造所では工場見学ができ、コナビールの色々な銘柄を試飲できるためハワイ島の人気のスポットでもある(※醸造所の見学は予約が必要で、15歳未満の子供は参加出来ないそう)。見学の後はコナ・ブリューイング・パブで、ピザなども堪能できるコナビールファンにお薦めのスポット。

HP: <https://konabrewingco.com/>

《 ハワイな一枚 》



ハワイ

ヘンリー・オーケウンス&ヒズ・ロイヤル・ハワイアンズ
Richard Weize Archives [Import CD]

1929年から1952年の間にリリースされた10組のアーティストやバンドたちによって演奏された極上のハワイアン・ミュージック21曲を収録したコンピ作品。